

世界から選ばれる 「三方よし・未来よし」の滋賀の実現

滋賀県

- ・豊かさとは何か？ 幸せとは何か？
- ・今の生活は持続可能か？
- ・誰かを犠牲にしていないか？



『新しい豊かさ』を追求
~今だけ、モノだけ、自分だけではない~

「変わる滋賀 続く幸せ」
(滋賀県基本構想 2019~2030年度)



世界とのつながりの中で実践



なぜ、滋賀からSDGsなのか？

滋賀県にはSDGsに通じる思想・歴史・文化が息づいている

琵琶湖・山

～自然・生き物・下流域
のことを考える～

水のつながり

～歴史・文化・産業～

人のつながり

～思想・福祉・教育～

SDGs 未来都市に向けた滋賀県の思い

- 2017年1月、知事がSDGsを県政に取り込むことを宣言(都道府県では全国初)
- SDGsのさらにその先、2050年、2100年に向けて、世界でSDGsの精神を実践する人を育てる未来都市へ

2017.6.1
国連のトーマス・ガス事務次長補来県



「自治体SDGsモデル事業」の概要

モデル事業：世界から選ばれる「三方よし・未来よし」の滋賀の実現



<経済面の取組>



ビワイチの推進

琵琶湖一周
約200km



KPI	
指標: 観光消費額	
現在(2017年): 1,793億円	2021年: 1,960億円
<連携> 輪の国びわ湖推進協議会 など	

びわ湖一周サイクリング



年間10万人
がチャレンジ

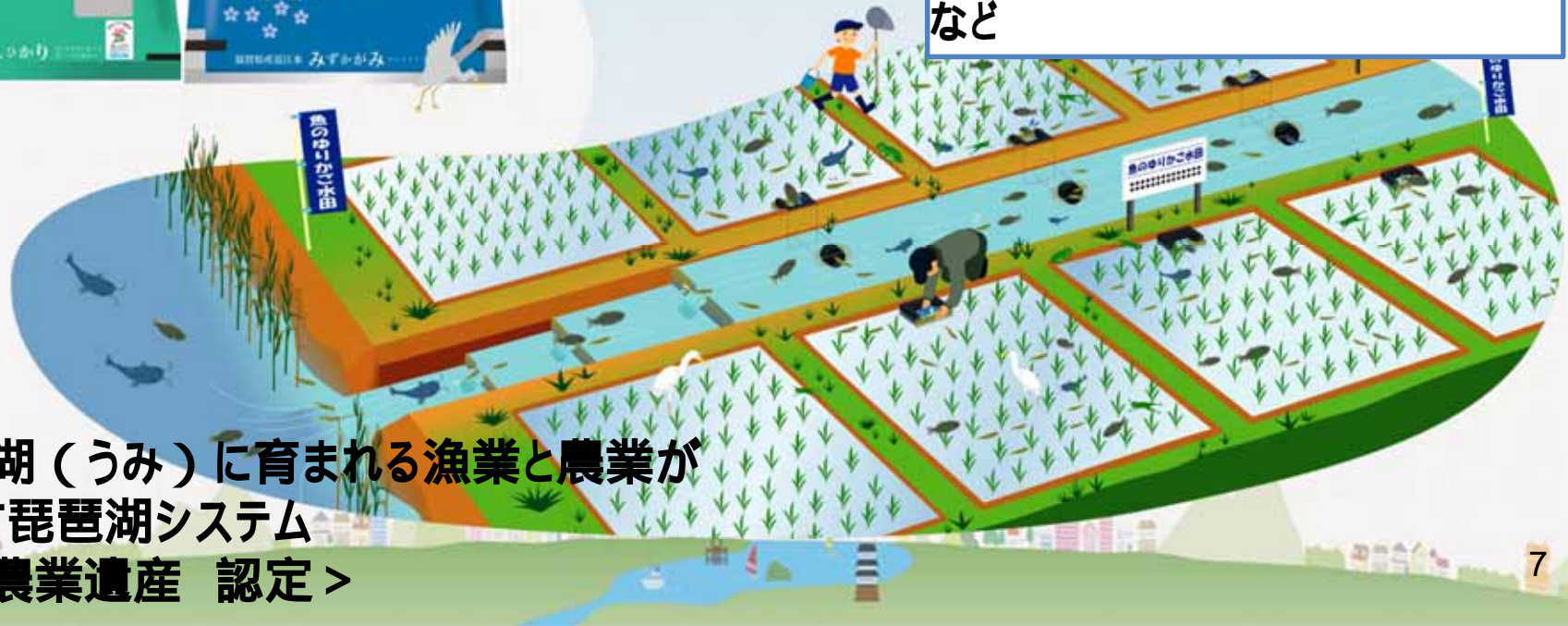
<経済面の取組>

琵琶湖と共生する農林水産業の推進



環境こだわり農業
オーガニック農業

KPI	
指標: オーガニック農業(水稻) 取組面積	
現在(2017年): 247ha	2021年: 360ha
<連携> 龍谷大学、ジェトロ滋賀 など	



森・里・湖(うみ)に育まれる漁業と農業が
織りなす琵琶湖システム
<日本農業遺産 認定>

<社会面の取組>

「誰一人取り残さない」共生社会づくり



伝統や流行などに左右されず自身の内側から湧きあがる衝動のまま表現した芸術「アール・ブリュット」

KPI

指標：障害者福祉施設から一般就労への移行者数

現在(2017年)：	2021年：
144人	209人

<連携> 社会福祉法人グローなど

10 人や国の不平等をなくそう



「障害の社会モデル」を県民全体で共有
誰もが暮らしやすい社会づくり

<社会面の取組>



やまの健康の推進

KPI	
指標: 「やまの健康」を目指して地域が取り組むプロジェクト数(累計)	
現在(2018年):	2021年:
0	10

11 住み続けられるまちづくりを

「やまの健康」山と農のにぎわい創出

「やまの健康」獣害対策

「やまの健康」仕事おこし

「やま・さと・まち」移住・交流推進

「やまの健康」森の恵み活用促進

「やま・さと・まち」空き家流通促進

農山村が持続可能な形で活性化している姿 = やまの健康

<環境面の取組>

琵琶湖の水草対策と活用

水草堆肥の高品質化、バイオガス発電、繁茂抑制など

企業の新技術開発支援



6 安全な水とトイレ
を世界中に



KPI	
指標：琵琶湖南湖の水草繁茂面積	
現在(2017年)： 25km ²	2021年： 望ましい状態である 20～30km ²
<連携> 国立環境研究所琵琶湖分室など	

<環境面の取組>

体験型の環境学習の推進



学習船「うみのこ」

累計55万人が乗船



KPI

指標：県民の環境保全行動実施率

現在(2018年)：
76.7%

2021年：
80%以上

<連携> 国際湖沼環境委員会など

「うみのこ」： 県内小学5年生を対象とする湖上宿泊体験学習

「やまのこ」： 森林体験学習

「たんぼのこ」： 農業体験学習

三側面をつなぐ統合的取組

先人から受け継ぐ思想

三方よし

忘己利他

良知に至る

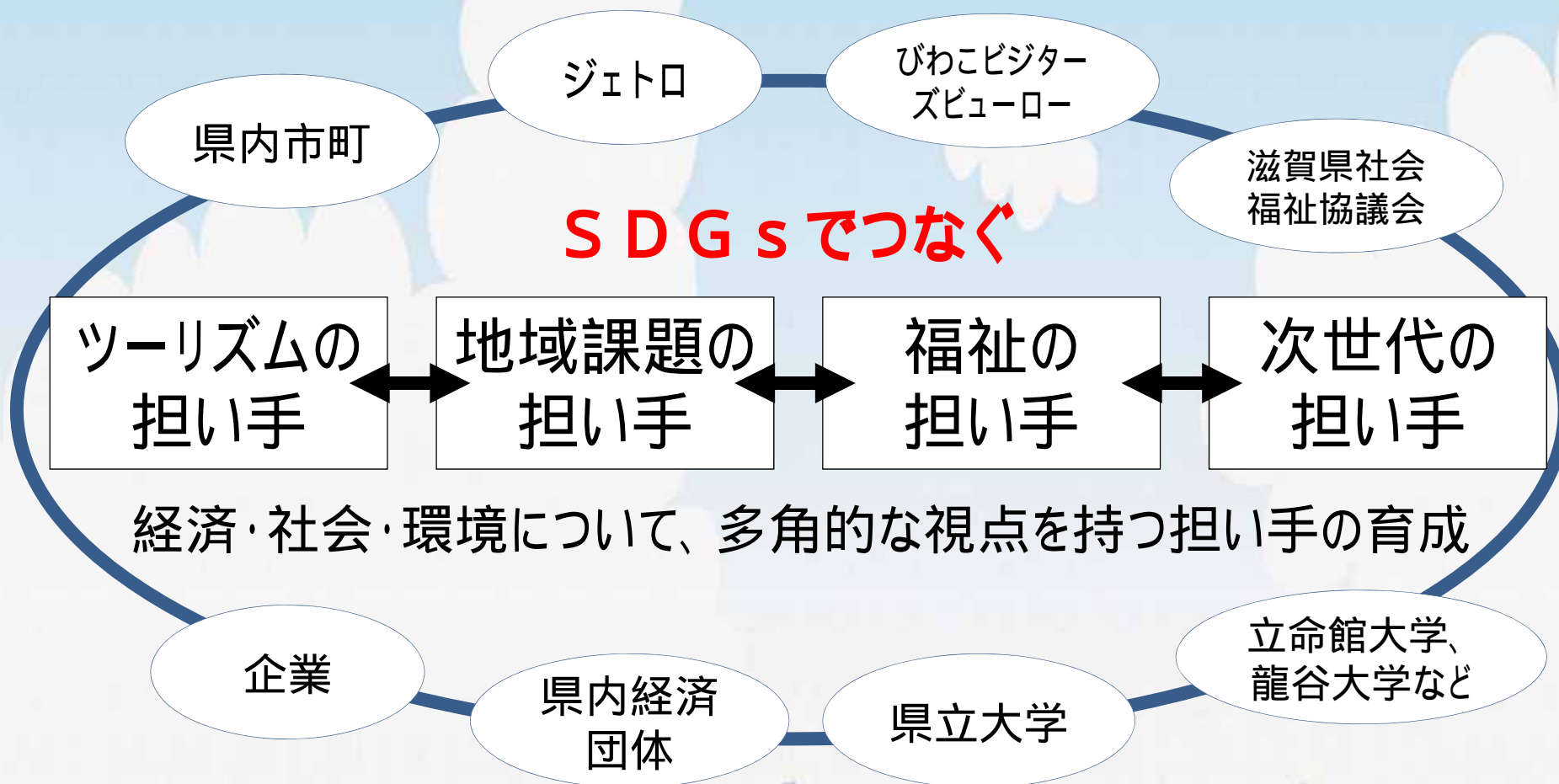
誠心の交わり

一隅を照らす

この子らを
世の光に

三側面をつなぐ統合的取組

滋賀の未来をつくる担い手育成システムの構築



経済・社会・環境について、多角的な視点を持つ担い手の育成

統合的取組による全体最適化

経済・社会・環境の三側面のバランスが取れた社会を実現するのは「人の力」であり、「知ること」「学ぶこと」は、社会を変革することにつながる。

統合的取組

地域資源の価値を正しく知り、その価値を損なわない形で活かすことのできる担い手育成

持続可能な滋賀モデル

(広域のまちづくりモデル)

国内外から評価

交流人口関係人口の獲得

県民の誇り

幸福感

琵琶湖・地域を思う気持ち

共生社会

より良い未来へ

統合的取組による相乗効果

経済⇔環境

社会課題を基点とする ビジネスの活性化



経済

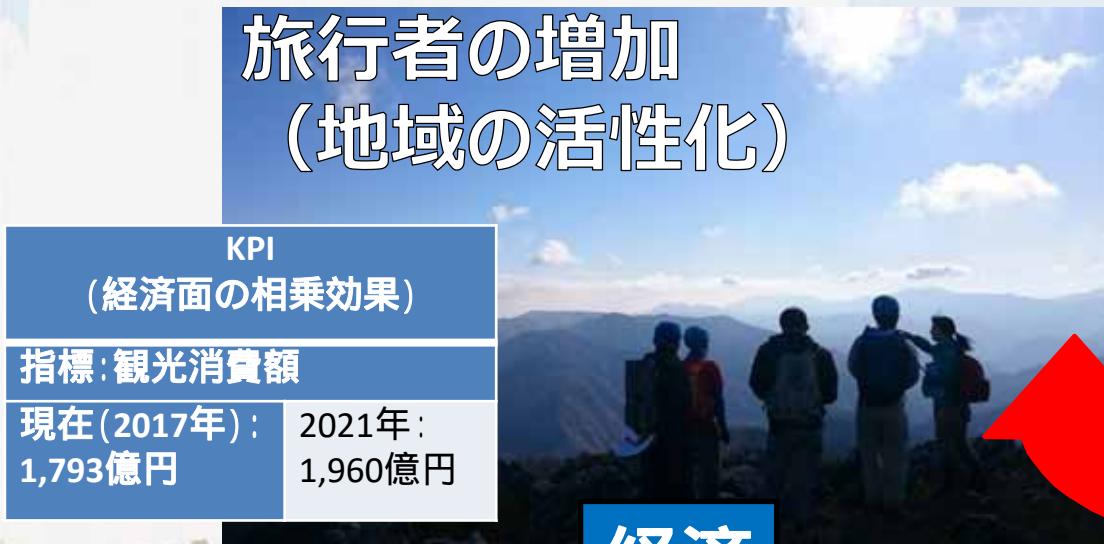
琵琶湖環境の改善



環境

KPI (環境面の相乗効果)	
冬季ニゴロブナ当歳魚資源尾数	
現在(2017年): 507万尾	2021年: 650万尾

旅行者の増加 (地域の活性化)



経済

環境保全の取組の推進



環境

KPI (経済面の相乗効果)	
指標: 観光消費額	
現在(2017年): 1,793億円	2021年: 1,960億円

統合的取組による相乗効果 経済⇔社会

社会課題を起点とした
ビジネスが活性化



経済

多様な人々の就労
機会の増加



社会

農業と福祉の連携

KPI (社会面の相乗効果)	
指標: 障害者福祉施設から一般就労への移行者数	
現在(2017年): 144人	2021年: 209人
指標: 女性活躍推進企業認証数	
現在(2017年): 177社	2021年: 230社

企業等における多様な
人材確保



経済

障害者への理解の深まり



社会

KPI (経済面の相乗効果)	
指標: 障害者福祉施設から一般就労への移行者数	
現在(2017年): 144人	2021年: 209人
指標: 観光消費額	
現在(2017年): 1,793億円	2021年: 1,960億円

統合的取組による相乗効果 社会⇔環境

「やまの健康」の取組や、「日本遺産」に対する理解の向上



環境

自然環境の保全に取り組む県民の増加



社会

KPI (環境面の相乗効果)	
指標: 県民の環境保全行動実施率	
現在(2018年): 76.7%	2021年: 80%以上

自然環境を目当てとする移住者の増加



社会

KPI (社会面の相乗効果)	
指標: 移住施策に取り組む市町への県外からの移住件数	
現在(2017年): 107世帯	2021年: 180世帯

自然環境の改善



環境

ステークホルダーと連携した自律的好循環の実現



SHIGA × SDGs

【初年度】

滋賀の未来をつくる担い手育成システムの構築

【2年目】

「滋賀 × SDGs 交流会」の場を活用し、
担い手の連携・協働を促進することで、自律的取組を促進

【3年目】

地域のにぎわい活性化 多分野での取組拡大 担い手の増加
自律的な担い手育成システムの構築

SDGsのその先へ！2050年、2100年も見据えつつ、
世界から選ばれる「三方よし・未来よし」の滋賀の実現に取り組む